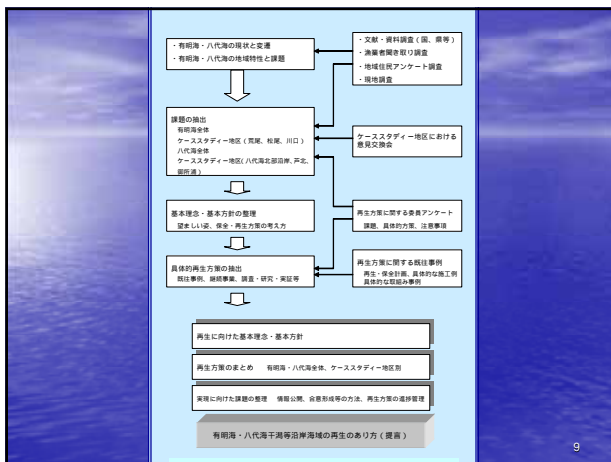


氏名	所属	職名
委員長 渡川 清	熊本大学沿岸環境科学教育研究センター	教授
副委員長 弘田 健一郎	熊本大学名誉教授	名誉教授
大和田 益一	熊本県立大学環境共生学部	学部長
菊池 孝二	九州大学名誉教授	名誉教授
北川 和彦	熊本県漁業協同組合連合会指導部	次長
木田 進次	熊本大学工学部物質生命科学科	教授
清野 聡子	東京大学大学院総合文化研究科広域システム科学科	助手
西岡 康成	熊本県議会	議員
逸見 孝久	熊本大学沿岸環境科学教育研究センター	教授
安田 宗生	熊本大学文学部総合人間学科	教授
山本 智子	鹿児島大学水産学部付属海洋資源環境教育研究センター	助手
横山 智	熊本大学文学部総合人間学科	助教

開催年度	開催日	委員会等	検討内容
平成16年度	8月31日	【第1回委員会】	・委員会の設置について ・委員長及び副委員長の選任 ・委員会の公募、選任について 等
	11月8日	【第2回委員会】	・委員の追加について ・干潟等沿岸海域の施設等について ・干潟等沿岸海域再生調査計画について
	12月24日	【第3回委員会】 (環境調査「海潮」と八代海沿岸の調査)	・干潟等沿岸海域再生調査の進捗状況等について事務局と委員で意見交換 ・八代海沿岸の調査（船上から）
	1月27日	【第4回委員会】	・有明海・八代海の現状と課題について ・塩害調査等について
	3月22日	【第5回委員会】	・地域特性及び課題の整理について
平成17年度	7月1日	【第6回委員会】	・今年度の検討方針 ・有明海ケースタディー地区の選定
	8月24日	有明海地域協議会(1)	有明海地区意見交換会
	9月5日	有明海地域協議会(2)	熊本市特産地地区（白川・坪井川河口）意見交換会
	9月7日	有明海地域協議会(3)	熊本市川口地区（緑川河口）意見交換会
	9月30日	【第7回委員会】	・有明海ケースタディー地区における意見交換会の状況報告 ・八代海ケースタディー地区の選定
	10月28日	八代海地域協議会(1)	芦北地区意見交換会
	10月31日	八代海地域協議会(2)	八代海北部沿岸地区意見交換会
	11月4日	八代海地域協議会(3)	御所地区意見交換会
	12月21日	【第8回委員会】	・八代海ケースタディー地区における意見交換会の状況報告 ・干潟等沿岸海域の再生方針の検討（他地域での事例等について）
	1月20日	【第9回委員会】	干潟等沿岸海域の再生方針の検討（課題の抽出と具岸の調査について）
	2月22日	【第10回委員会】	委員会報告書（案）の検討（有明海・八代海再生へ向けたい「調査」の作成）
3月20日	【第11回委員会】	委員会報告書（案）の提示。	



熊本県：有明海・八代海干潟等沿岸海域再生検討委員会 ～有明海・八代海干潟等沿岸海域の再生に向けて

(2) 内容の紹介

本調査におけるポイント(1)

- 既存の資料やデータ、市史、町史等の活用
熊本県の過去の報告資料等、市町村の市史
- 調査が行われておらず、データがない時代の状況把握
漁業者への聞き取りや一般住民も含めたアンケート調査の実施
- 専門家による検討
有明海・八代海干潟等沿岸海域再生検討委員会の設置

本調査におけるポイント(2)

4. データがない中で、どのように原因を探り、如何に再生への道筋を示すか。
 - まず、有明海・八代海において、干潟や藻場のある沿岸域の変化が大きな影響を及ぼしていると考え、調査・検討に着手。
 - 調査データだけでなく、聞き取り結果等を踏まえ、専門家の検討を経て、原因・要因を想定。
 - 同じ海域においても、区域毎に環境条件等が異なるとの前提で、ゾーン区分を試みると共に、課題を絞り込むためケースタディー地区を各海域で3箇所ずつ、計6箇所を設定。
 - 2)に対し、他県の情報や県内での取り組み等助案し、3)のケースタディー地区毎に具体的な再生方針を専門家の意見として提示。
実証段階の方策や今後必要と考えられる調査等についても、方策の中で示した。
- 5) 4)の結果については、あくまで意見として、今後、各ケースタディー地区へフィードバックしながら、地域での課題についての共通認識や対策への合意形成に努めることとしている。